

海外留学関連

短期海外留学プログラム（夏期・春期）

● 夏休み 海外留学プログラム

名称	英語・アメリカ文化研修
留学先	南イリノイ大学（アメリカ）
期間	4週間 2022年8月22日～9月16日
参加人数	13人
概要	Center for English as a Second Language (CESL) による授業。毎日2時間の英語授業と週2時間の現地学生や住民、大学教員の授業等の活動 週2回、徳島大学の教員によるオンラインの指導も行った
形態	オンライン

留学先	韓国海洋大学（韓国）
期間	2週間 2022年8月8日～8月26日
参加人数	2人
概要	韓国文化体験、韓国語学習など
形態	現地留学、大学寮に滞在

● 春休み 海外留学プログラム

名称	英語・カナダ文化研修
留学先	トリニティウエスタン大学（カナダ）
期間	4週間 2023年2月13日～3月10日
参加人数	9人
概要	Tokushima University 4-Week Study Tour に参加（徳島大学の学生のためのカスタマイズされたプログラム）。英語授業50時間に加えて、大学外での活動（地域ボランティアなど）
形態	現地留学、ホームステイ



トリニティウエスタン大学 英語・カナダ文化研修

名称	英語・アメリカ文化研修
留学先	南イリノイ大学（アメリカ）
期間	4週間 2023年2月13日～3月10日
参加人数	4人
概要	Center for English as a Second Language（CESL）で80～100時間の英語コースを受講
形態	現地留学、大学寮に滞在

名称	英語・フィリピン文化研修
留学先	デラサールアラネタ大学（フィリピン）
期間	2週間 2023年2月20日～3月3日 6人
参加人数	4週間 2023年2月20日～3月17日 2人
概要	ESL Premium language program of De La Salle Araneta University Lasallian Language Centerに参加。週8コマ（1コマ50分）の対一の英語授業と2コマの文化理解・現地学生との交流
形態	オンライン

● 通年

派遣先	慶北大学（韓国）
参加人数	2人
形態	交換留学

グローバル・パーソン集中プログラム (GRIP, Global Person Resources Intensive Program)

● 目的および主旨

インターナショナルオフィスは、全学的なグローバル人材の育成を目的として、2021年度から「グローバル・パーソン集中プログラム (GRIP, Global person Resources Intensive Program)」を継続して実施しており、今年度は前期に第3期生(13名)、後期に第4期(9名 *1名途中辞退)がプログラムを修了した。

このプログラムは、自国および他国の文化・歴史を理解し、外国語による高いコミュニケーション能力を有した、多様な人と協働できる「グローバル・パーソン」の育成を目的としており、学生たちが学部を超え、海外大学の学生とのオンラインでの協働学習を行うことで、異なる者への理解と実践的な英語コミュニケーション能力の向上を促進するための活動を展開している。今年度、第3期、第4期における活動の概略は以下のとおり。

● 活動の概略と内容

【第3期 GRIP 概要】

- ・日程：2022年5月17日(火)～9月20日(火)
- ・選考：オンライン英語テスト(CASEC)の結果および提出書類をもとに総合的に判定
- ・奨学金：修了学生に対して「支援奨学金」をプログラム参加に係る費用の全額程度支給
- ・参加者数：13人

日付	セッション項目	回数	時間数
5/13(金)	CASEC 受験指導	1	---
5/14(土) -15(日)	CASEC 受験 *1	---	---
5/17(火)	開講式	1	1
5/20(金)	異文化理解・英語学習オリエンテーション	1	1
5/24(火) -6/17(金)	TU-UTeM 英語講座 *2	8	8
6/18(土)	徳島文化講座 *3	1	4
6/21(火) -7/15(金)	UTM 異文化理解グループワーク *4	6	6
6/24(金)	グローバル講演会 *5	1	1
7/17(金)	GRIP SIU 異文化・英語学習講義	1	1
8/22(月) -9/16(金)	SIU Online Program *6	20	40
8/23(火) -9/16(金)	SIU Support Class *7	8	8
9/20(火)	修了式・事後指導	1	1
合計		9	71

- *1. CASECは各受講生が任意の時間に受験するようにしたことから、プログラムの時間数としては計上していない。
- *2. UTeM(マレーシアマラッカ技術大学(Universiti Teknikal Malaysia Melaka))と本学インターナショナル教員による英語集中講座。毎週、火曜、金曜にそれぞれ半数の学生を担当。
- *3. 徳島大学教養教育院 Moreton 准教授による文化理解講座。今回は徳島中央公園でのオリエンテーションを行った。
- *4. UTM(マレーシア工科大学(Universiti Teknologi Malaysia))との異文化理解グループワーク。今回はマレーシアの教育や社会制度、食べ物などをテーマにインタビューを行い、プレゼンテーションを行った。

- *5. 今回のグローバル講演会は、中川雅貴氏（国内外資系企業勤務、総合科学部卒業）に、「ラトビアと日本の国際交流～音楽を通して～」というテーマで講演して頂いた。
- *6. SIU Online 授業は、月曜から金曜、午後 21 時～23 時の 2 時間開講された。英語授業だけでなく、学生や地域住民などとの交流も行われた。
- *7. SIU Support Class は、上記 SIU Online Class を補完するためのものであり、毎週火曜、金曜の 2 回 1 時間ずつ提供された。

第 3 期では、上記の活動に加えて GRIP 参加学生が自由に英会話を練習できる Free Talk Session を合計 5 回、常三島キャンパス地域創生・国際交流会館 2F ELCS で実施した。開催日は、6 月 21 日（火）、7 月 4 日（月）、7 月 6 日（水）7 月 11 日（月）、7 月 13 日（水）で、それぞれ午後 18 時～19 時まで開催した。

【第 4 期 GRIP 概要】

- ・日程：2022 年 10 月 18 日（火）～2023 年 3 月 22 日（水）（予定）
- ・選考：オンライン英語テスト（CASEC）の結果および提出書類をもとに 総合的に判定
- ・奨学金：修了学生に対して「支援奨学金」をプログラム参加に係る費用の全額程度支給
- ・参加者数：9 人（*1 名途中辞退）

日付	セッション項目	回数	時間数
10/13（木）	CASEC 受験指導	1	---
10/14（金）-16（日）	CASEC 受験 *1	0	---
10/18（火）	GRIP 顔合わせ会 *2	1	1
10/21（金）、25（火）	日本文化講義 *3	2	2
10/28（金）	Special Lecture on Malaysia (by Dr. Abdulah)	1	1
10/29（土）	徳島文化紹介ツアー *3	1	4
11/1（火）-11/25（金）	TU-UTeM 英語講座 *4	7	7
11/11（金）	グローバル講演会 *5	1	1
11/29（火）	UTM 交流会 *6	1	1
12/2（金）	振り返り & 相談会	1	1
12/6（火）-2023 1/10（火）	UTeM Video Project	1	7
1/17（火）、1/20（金）	TU 英語講座	2	2
2/11（土）-3/11（金）	英語・カナダ文化研修 *7	1	50
2/13（月）-3/11（金）	英語・アメリカ文化研修 *7	1	80
2/20（月）-3/3（金）	英語・フィリピン文化研修（2 週間） *7	1	20
2/20（月）-3/17（金）	英語・フィリピン文化研修（4 週間） *7	1	40
3/16（木）	短期海外留学事後指導	1	1
3/22（水）	修了式・事後指導	1	1
合計		22	49～109

- *1. 前期同様、プログラムの時間数としては計上していない。
- *2. 後期は時間的な都合つかず、開講式を開くことができなかった。その代わりに、GRIP 参加者と ELCS で GRIP の活動を支援する GRIP Student Staff（後述）との顔合わせ会を開いた。
- *3. UTeM（マレーシアマラッカ技術大学（Universiti Teknikal Malaysia Melaka））から招聘した Dr.

Abdulah に徳島市内（阿波踊り会館、眉山山頂など）を紹介するイベントを 10 月 29 日（土）に開催した。そのために必要な英語表現や紹介するポイントなどを、教養教育院 Moreton 准教授にレクチャーしてもらった（10/21、10/25）。

- *4. UTeM（マレーシアマラッカ技術大学）と本学インターナショナルオフィス教員による英語集中講座。前期同様、火曜、金曜にそれぞれ半数の学生を担当。
- *5. 今回は、徳島大学大学院医歯薬学研究部藤川理恵助教にご講演頂いた。
- *6. UTM（マレーシア工科大学）とのオンライン学生交流を行った。今回の交流では、両校の学生に日常生活を写した写真を数枚準備してもらい、それらをシェアし、説明することで交流を行った。
- *7. それぞれの研修先は以下のとおり。

英語・カナダ文化研修：トリニティウエスタン大学（TWU: Trinity Western University）

英語・アメリカ文化研修：南イリノイ大学（SIU: Southern Illinois University）

英語・フィリピン文化研修：デラサールアラネタ大学（DLSAU: De La Salle Araneta University）

参加者は上記 3 か所から 1 つのみを選択した。

なお、総時間数は各研修での最低時間数を提示。

第 4 期では、上記の活動に加えて GRIP 参加学生が自由に英会話を練習できる Free Talk Session を、毎週月曜～金曜に開催した。開催日数、参加人数は以下のとおり。

- ・ 開催日：2022 年 10 月 18 日（火）～2023 年 2 月 10 日（金） 計 67 日
- ・ 場所：地域創生・国際交流会館 2F ELCS
- ・ 参加人数（のべ）：合計 640 人
 - 学生スタッフ 240 人
 - GRIP 参加者 102 人
 - その他学生 298 人

個別留学相談

インターナショナルオフィスと国際課の教職員が協力し、学生の留学相談に対応している。相談内容は留学先、留学形態、留学期間、休学の必要性、「トビタテ！留学 JAPAN」、ワーキングホリデーに関するものなど、多岐にわたる。長期留学に関する相談、奨学金に関する相談もあり、目的に合ったプログラム・行き先の選び方や留学費用に関する質問も受けた。学部で実施される留学についての質問も多く、学部の留学相談教員や事務に相談するよう働きかけた。新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、海外留学に対する学生の興味が高まっている事が感じられた。英語能力向上に関する相談もあり、GRIP や留学生との交流イベント、学生サポーター制度などを紹介した。

相談件数：74

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN～

過去に「トビタテ！留学 JAPAN」に参加した学生と協力して、募集説明会を開催した。また、申請希望学生に対する留学計画相談を受けたり、申請書のサポートを行ったりした。

「トビタテ！留学 JAPAN」 第 15 期

説明会 2022 年 12 月 7 日 オンライン

参加者数 24 人

申請者 5 人

その他の留学支援

海外危機管理オリエンテーション

海外現地留学をする学生と海外留学に関心がある学生や教職員を対象に、2023年1月23日(月)に海外留学生安全対策協議会(JCSOS)の海外セキュリティアドバイザーを講師として招き海外危機管理オリエンテーションを開催した。海外でトラブルに巻き込まれないための予防策、万一巻き込まれてしまった場合の対処法などについて、海外でのトラブル事例をもとにお話いただいた。本セミナーは海外留学を予定している本学学生には参加を必須としている。参加できなかった学生は録画された動画を視聴することになっている。



Global Space Josanjima / Kuramoto

常三島・蔵本両キャンパスに「Global Space」を設置している。学生が海外協定校情報や海外留学情報を自由に閲覧できるようになっている。また、海外留学相談や GRIP、外国人留学生と日本人学生との交流、外国人留学生対象の日本語の授業を行う場所としても活用されている。



Global Space Josanjima

留学生就職意向動向調査 2022

本調査の目的

今後の留学生を対象とした就職支援事業を検討するために本調査を実施した。

本調査の内容

調査は、本学に在籍する留学生で、学部、大学院に所属する者(計 180 名、2022 年 12 月時点)を対象とした。2021 年度は研究生、特別聴講生を除外して調査を行ったが、今回は両者を含めた形で調査を実施した(調査期間:2022 年 11 月末~2023 年 1 月中旬)。

調査はすべてオンラインで行った。

まずは、調査での質問項目を以下に示す。

- ・ 氏名、所属、学年、国籍に関する質問
- ・ Q1 卒業・修了したらどうしますか？今考えているものを、ひとつチェックしてください。
母国で研究する / 母国で就職する / 日本で研究する / 日本で就職する /
まだ決めていない
- ・ Q2-1 日本で就職するとしたら、どこで働きたいですか？
徳島県内 / 徳島県外 / どこでも
- ・ Q2-2 なぜ日本で働きたいと思いましたか？
自分の専門を生かしたいから
日本企業にいいイメージを持っているから
日本企業の方が待遇が良いから
自分の語学力を生かしたいと思ったから
日本が好きだから
日本が生活しやすいから
将来のキャリアのため
- ・ Q3-1 インターナショナルオフィスが主催する就職支援セミナーに参加したことがありますか？
はい / いいえ
- ・ Q3-2 「はい」と答えた方にお聞きします。セミナー情報をどのようにして得ましたか？
「留学生共同サポートセンターとくしま」ホームページで
国際課・インターナショナルオフィスからの Eメールで
先生や事務から
学内掲示板で
友達から
その他

- ・ Q3-2 「いいえ」と答えた方にお聞きします。その主な理由は何ですか？

セミナーについて知らなかったから
セミナーが自分の予定と合わなかったから
忙しくてセミナーに参加できないから
セミナーに参加しなくても仕事を探せるから
その他

- ・ Q4 大学にどのようなサポートをして欲しいですか？

日本企業での働き方について教えてほしい
日本企業での一般的なキャリアパスについて教えて欲しい
ビジネス日本語を教えてほしい
日本でのビジネスマナーを教えてほしい
いつ、どのように就職活動をはじめたらいいのか教えてほしい
面接について教えてほしい
エントリーシートの書き方について教えてほしい
会社のさがし方を教えてほしい
その他

本調査の結果

本調査の結果は以下のとおり。

回答者数および国籍

今回、本調査に解答した留学生は 180 名中 108 名で、回答率は 60.0% (2021 年度は 65.2%) であった。

部局ごとの回答数は、

- ・常三島地区： 創成科学研究科(33名)、先端技術研究部(9名)、理工学部(15名)、総合科学部(11名)、生物資源産業学部(1名)、高等教育研究センター(4名)
- ・蔵本地区： 医学研究科(11名)、口腔科学教育部(10名)、薬学研究科(6名)、医科栄養研究科(4名)、保健科学研究科(2名)、医学部(1名)、薬学部(1名)

であった。

国籍別での回答者数は以下のとおり。

国名	2022 年度		2021 年度	
	人数	%	人数	%
中華人民共和国	28	25.9	31	41.3
台湾	11	10.2	1	1.3
大韓民国	10	9.3	5	6.7
インドネシア共和国	9	8.3	9	12.0
バングラデシュ人民共和国	9	8.3	5	6.7
ベトナム社会主義共和国	8	7.4	5	6.7
モンゴル国	7	6.5	10	13.3
マレーシア	6	5.6	2	2.7
インド	6	5.6	3	4.0
ガーナ共和国	3	2.8	---	---
スウェーデン王国	3	2.8	---	---
フィリピン共和国	3	2.8	---	---
タイ王国	1	0.9	1	1.3
エジプト・アラブ共和国	1	0.9	1	1.3
エチオピア連邦民主共和国	1	0.9	1	1.3
カナダ	1	0.9	---	---
フランス共和国	1	0.9	---	---
総計	108	100%	74	100%

2011 年度、2022 年度の回答数を比較してみると、

- 中国人留学生からの回答は、割合としては減少している(41.3%→25.9%)が、人数を見る限りあまり変化していない(2021 年度 31 名、2022 年度 28 名)
- 特に、台湾、韓国からの留学生の回答が増えており、台湾人留学生に関しては 2021 年度に 1 名(1.3%)であったのが、2022 年度には 11 名(10.2%)に、韓国人留学生に関しては 2021 年度に 5 名(6.7%)であったのが、2022 年度には 10 名(9.3%)に増加している。

Q1 卒業・修了したらどうしますか？今考えているものを、ひとつチェックしてください。

部局別の結果を表1に示す。

表1 卒業後の進路 部局別結果

	母国で進学・研究する	母国で就職する	日本で進学・研究する	日本で就職する	まだ決めていない	総計
学部		2	3	7	4	16
理工学部		2	3	5	3	13
生物資源産業学部				1		1
医学部				1		1
薬学部					1	1
大学院	1	32	8	19	11	71
創成科学研究科		11	4	11	4	30
先端技術科学教育部		4		5		9
医学研究科	1	6	1	1	2	11
口腔科学研究科		6	1		3	10
薬学研究科			2	2	1	5
医科栄養学研究科		3			1	4
保健科学研究科		2				2
研究生		6	3	1		10
総合科学部		1	1			2
創成科学研究科				1		1
理工学部			2			2
薬学研究科		1				1
高等教育研究センター		4				4
特別聴講	3	4		2	2	11
総合科学部	3	2		2	2	9
創成科学研究科		2				2
総計	4	44	14	29	17	108
	3.7%	40.7%	13.0%	26.9%	15.7%	

全体としては、「母国で就職する」が44件(40.7%、昨年度:25件(33.3%))と最も多く、次いで「日本で就職する」29件(26.9%、昨年度:18件(24.0%))、「まだ決めていない」17件(15.7%、昨年度20件(26.7%))、「日本で進学・研究する」14件(13.0%、昨年度:9件(12.0%))、「母国で進学・研究する」4件(3.7%、昨年度:3件4.0%))となっていた。

2021年度と比較すると、「母国で就職する」が25件から44件に、次いで「日本で就職する」が18件から29件に、「日本で進学・研究する」が9件から14件に増加していた。

昨年度は「まだ決めていない」というのが 20 件であったのが、今年度は 17 件と減少しており、少しずつではあるが、卒業後の進路選択に対する意識が向上してきたことが伺える。

また、「日本で就職」することを考えている留学生に注目してみると、創成科学研究科(11名)、先端技術科学教育部(5名)、理工学部(5名)と、昨年度同様、常三島地区にかなり集中していることが分かる。そこで、来年度も常三島地区に集中しながら、蔵本地区の学生にはオンラインでの相談対応などの対応を考える必要があると考えられる。

Q2-1 日本で就職するとしたら、どこで働きたいですか？

「日本で就職する」(29名)と「まだ決めていない」(17名)に対し、Q2-1 に示す質問を提示した。その結果、就職を希望する場所としては、

・「どこでも」	・「徳島県外」	・「徳島県内」
30名(65.2%)	14名(30.4%)	2名(4.4%)

を希望していることが分かった。

「徳島県内」と答えた留学生は、昨年度と比べると 14.0%減少していた(昨年度、18.4%)。「徳島県内」と答えた学生は 2 名であったが、いずれも「日本が好きだから」「自分の専門を生かしたいから」といった理由のようで、特に徳島に住むことに固執はしておらず、回答としては「どこでも構わない」という答えに非常に近いものであった。

Q2-2 なぜ日本で働きたいと思いましたか？

「日本で就職する」(29名)と「まだ決めていない」(17名)に対し、Q2-2 に示す質問を提示した。その結果、日本で働きたい理由としては、

・ 自分の専門を生かしたいから	23 件
・ 日本が好きだから	20 件
・ 将来のキャリアのため	18 件
・ 自分の語学力を生かしたいと思ったから	16 件
・ 日本が生活しやすいから	13 件
・ 本企業にいいイメージを持っているから	11 件
・ 日本企業の方が待遇が良いから	7 件
・ その他	4 件

といった回答が挙げられていた。

昨年度同様、「自分の専門を生かしたいから」(23 件、昨年度 15 件)、「将来のキャリアのため」(18 件、昨年度 13 件)といった自らの専門家としてのキャリアパスを理由とした回答に加え、「日本が好きだから」(20 件、昨年度 15 件)、「日本が生活しやすいから」(13 件、昨年度 10 件)といった日本に対する好意的なイメージや生活上の利便性を理由とした回答も多く見られた。また、昨年度は「語学力を生かしたいから」が 8 件と少なかったが、今回の調査では 16 件と多くなっていた点が特徴的である。

Q3 インターナショナルオフィスが主催する就職支援セミナーに参加したことがありますか？

「日本で就職する」(29名)と「まだ決めていない」(17名)に対し、Q3に示す質問を提示した。その結果、「日本で就職する」と答えた留学生では、

・「Yes 参加したことがある」
17名(58.6%)

・「No 参加したことはない」
12名(41.4%)

となっていたが、その一方、「まだ決めていない」と答えた留学生では、

・「Yes 参加したことがある」
3名(17.6%)

・「No 参加したことはない」
14名(82.4%)

となっていたことが明らかになった。

① Q3-1 「はい」と答えた方にお聞きします。セミナー情報をどのようにして得ましたか？

続いて、Q3で「Yes」と回答した留学生20名に対し、Q3-1に示す質問を提示した。その結果、

- | | |
|------------------------------|-----|
| ・ 国際課・インターナショナルオフィスからのEメールで | 17名 |
| ・ 先生や事務から | 2名 |
| ・ 友達から | 1名 |
| ・ 「留学生共同サポートセンターとくしま」ホームページで | 0名 |
| ・ 学内掲示板で | 0名 |

となっており、セミナーの情報についてはインターナショナルオフィス・国際課からのメールと教員・事務からの連絡を通して伝わっていることが分かった。セミナーの開始前に行っているホームページや学内掲示板での周知については、その回答が0名であった。一方、教員や事務などが掲示を見て学生に伝えている場合もあることから、今後は受け入れ教員向けにもメールなどで連絡することも検討する必要があるだろう。

② Q3-2 「いいえ」と答えた方にお聞きします。その主な理由は何ですか？

続いて、Q3で「No」と回答した留学生26名に対し、Q3-2に示す質問を提示した。その結果、

- | | |
|------------------------|----|
| ・ 忙しくてセミナーに参加できないから | 9名 |
| ・ セミナーが自分の予定と合わなかったから | 7名 |
| ・ セミナーについて知らなかったから | 5名 |
| ・ セミナーに参加しなくても仕事を探せるから | 2名 |
| ・ まだ早いから | 2名 |
| ・ 日本にいなかったから | 1名 |

という回答を得ることができた。

今回の回答を見る限り、「セミナーについて知らなかったから」と答えた留学生が 26 名中 5 名となっていることから、セミナーに関する認知度はさほど低くなく、概ね周知ができているものと思われる。

一方、「忙しくてセミナーに参加できないから」(9 名)、「セミナーが自分の予定と合わなかったから」(7 名)と回答した学生に対する支援を至急に検討する必要がある。特に、時間に関係なく受講できるオンデマンド式のセミナーを提供することは至急対応として行う必要があると考える。

Q4 大学にどのようなサポートをして欲しいですか？

「日本で就職する」(29 名)と「まだ決めていない」(17 名)に対し、Q4 に示す質問を提示した。今回も前回の調査同様、以下の選択肢から複数項目を選んでもらった。

- ・ ビジネス日本語を教えてほしい
- ・ 日本でのビジネスマナーを教えてほしい
- ・ いつ、どのように就職活動をはじめたらいいのか教えてほしい
- ・ 面接について教えてほしい
- ・ エントリーシートの書き方について教えてほしい
- ・ 会社のさがし方を教えてほしい
- ・ 日本人との働き方を教えてほしい

結果は表 2 のとおり。

表 2 期待する大学からのサポート

	日本で就職する	まだ決めていない	合計
面接について教えてほしい	19 (11)	9 (14)	28 (25)
就職活動のはじめ方について教えてほしい	17 (6)	7 (10)	24 (16)
日本企業での働き方について教えて欲しい*	12 (12)	7 (8)	19 (20)
会社のさがし方を教えてほしい	11 (11)	6 (9)	17 (20)
日本でのビジネスマナーを教えてほしい	13 (6)	4 (8)	17 (14)
ビジネス日本語を教えてほしい	11 (6)	5 (8)	16 (14)
日本企業での一般的なキャリアパスについて教えて欲しい**	10	5	15
エントリーシートの書き方について教えてほしい	10 (10)	4 (7)	14 (17)
合計	103	47	150

* 昨年度は「日本人との働き方を教えて欲しい」という選択肢で提示

** 今年度新たに追加

表 2 を基に各項目の割合を図 1 に示す。

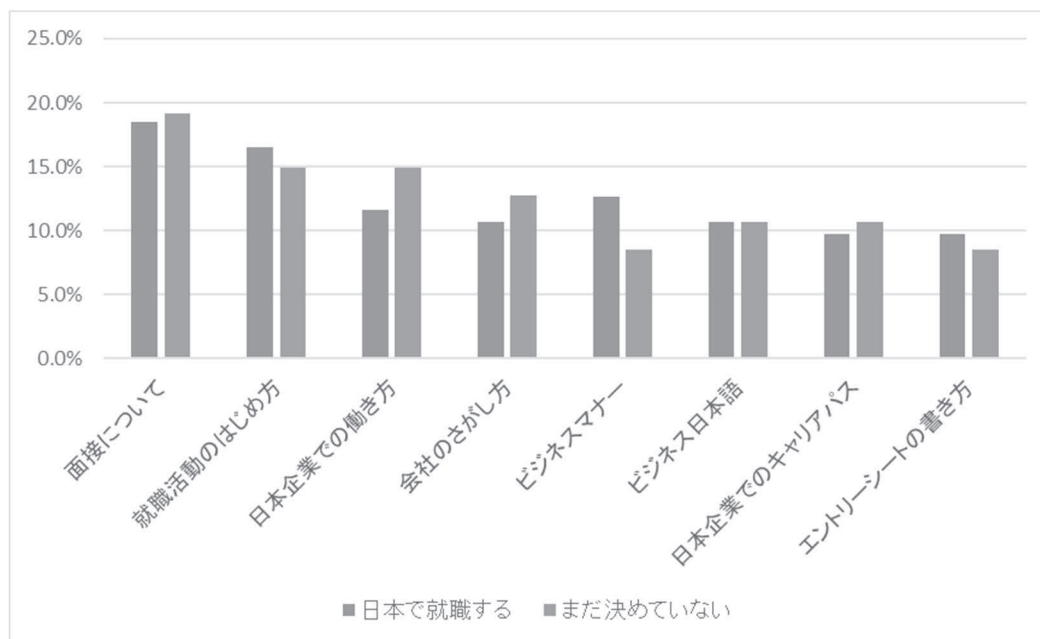


図 1 期待する大学からのサポート

前回の調査同様、「日本で就職する」「まだ決めていない」双方ともに、広範囲に渡る支援を期待していることが明らかになった。「日本で就職する」「まだ決めていない」に共通するものとして、「面接について」、「就職活動のはじめ方」といった日本の就活におけるテクニカルな側面での支援を期待していることが分かった。特に、「面接」は留学生にとって毎年課題となっているものであり、何かしらの形で強化する必要があるものと考えられる。

「就職活動のはじめ方」については、「面接について」同様、昨年度よりも大きくその数を伸ばしていることから、より多くの留学生が日本での就職に対してより具体的なイメージを持ち始めているものと考えられる。

一方、実際に就職を考えている留学生とまだ進路を決めていない留学生の間でいくつかの差を見ることができる。

今年度の結果を見る限り、「日本で就職する」と答えた学生の多くが、「面接について」「就職活動のはじめ方」といったテクニカルな部分に加え、「ビジネスマナー」のような実際に自分が就職した場合に必要なコミュニケーションスキルに対する支援を求めていることが明らかになった。一方、「まだ決めていない」と答えた学生の多くも、「面接について」「就職活動のはじめ方」「会社のさがし方」といったテクニカルな部分に加え、「日本企業での働き方」といった日本での就職に関する導入的な知識・体験を求めていると推察される。

今後の展開について

1. インターンシップを取り入れた「就職支援プログラム」の開発

まずは、日本での就活に必要な知識不足・認識不足を改善し、留学生にできるだけ早い時期から就職活動に取り組んでもらうために、インターンシップを留学生にとってより魅力的なものにする必要があると考える。今年度実施したインターンシップは、どちらかという企業訪問に近い形態となっており、留学生の希望を基にした活動というわけではなく、留学生が魅力を感じるというものではなかったように思う。そこで、来年度は留学生からの希望を基にインターンシップ先とのマッチングを行い、留学生の希望に沿った形でインターンシップを計画し、より充実した日本職場体験を提供できるようにしたいと考えている。

インターンシップに関しては県内企業に協力を頂きたいと考えており、具体的な受け入れ先の制定などについてCOC+やキャリア支援室の協力を得ながら進めていきたいと考えている。

2. 県外就職への支援

例年、県外での就職を希望する学生は9割を超えるが、これらの学生に対する支援を何かしらの形で進めていく必要があると思われる。県内企業に関しては、県内定着推進事業のお蔭で以前よりも充実したものとなってきているが、県外への就職に対しては、例えばマイナビやリクナビを使って就職支援を行うといったレベルに留まっている。そこで、来年度は、関西大学が中心となり展開している留学生就職支援コンソーティアム SUCCESS への加入について検討を進め、県外での就職支援を充実していきたいと考えている。

3. 留学生に対する就職支援体制の強化

現在、留学生に対する就職支援は、高等教育研究センター学修支援部門国際教育班とキャリア支援室が別個に行っているが、お互いが協力し、より緊密に連携しながら業務を展開していくために、①週1回程度、キャリア支援室で留学生への相談対応を行う、②キャリア支援室が提供するセミナー一覧に、留学生向け就職支援セミナーとして国際教育班が行っているものも組み入れてもらう、といったことを継続的に進めていきたいと考えている。

また、就職支援講座の動画配信にも着手し、予定が会わず講座に参加できなかった留学生にも就職支援を提供したいと考えている。